天明六年記

拾記

へ13
3315
14

へ 13
3315
14

凡士農工商とも夫〳〵の職分家業を固て精用の器物を造り
今日を営む事世界一般なれ共其中小説の巻中に白縮
の書入又い形さへ覚束なきの書入又い形さへ覚束なきの木偶人或い見苦き
男女の陰部迄画き君臣父子の中〳〵面を赤め合羽
同く気〳〵足笑ひ必竟一時の戯にして奇〳〵怪〳〵の
其職分に道具に疵付るの癖有り著述に拙く筆者の誤り
なるも出言語と云く其過ちを免れ難の事源〳〵園て素代りて備君子の
池田屋清吉の足を歪れ難の事源〳〵園て素代りて備君子の
廣石山人識

和漢 貸本所 東京牛込細工町 誠光堂 池田屋清吉

牛込 本 池清

天保十三年壬寅春十二月

目録

一 水滸伝後編三十回 三編三十回
　 第六編三十回 第七編三十回
一 大明水滸伝 將軍宣武十回
一 回清三度記 梅中洋定二回

大正十八年九月寄贈
本大學出版部

池清

天明三年記巻十四

水地ハ別而高麗領之事

其国之儀ハ世界ニ流布之事

数年以前諸親類多き中ニ而

不易之品中者ハ漏度ハ国之儀ハ

浮定し御所地ハ

別而高麗之儀ハ

拾年ニ

付度し

山論ニ

而

迷不易品中者ハ漏度ハ国沼ニ

度ニ

離領

[illegible]中[illegible]の御[illegible]
[illegible]八実[illegible]し[illegible]
[illegible]中[illegible]八[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]何年[illegible]
[illegible]方[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の[illegible]
[illegible]
[illegible]侍[illegible]
[illegible]中[illegible]の御[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]人の[illegible]者[illegible]
[illegible]づゝ三人組食[illegible]あるべし一國[illegible]
[illegible]
[illegible]あり[illegible]千じ國[illegible]
[illegible]穀[illegible]
世[illegible]中困窮の[illegible]四合[illegible]
[illegible]千俵[illegible]
[illegible]切[illegible]中[illegible]

[illegible]穀あるく[illegible]も[illegible]
[illegible]食せざる者數多[illegible]
世[illegible]
[illegible]
[illegible]國[illegible]
[illegible]人[illegible]千人[illegible]
[illegible]義[illegible]
[illegible]城[illegible]井[illegible]

手負之衆等迯のかし城内へ入籠候
大うり之長谷川備前守を集め大唐国船
て手負之衆を乗和泉備後人集り之長谷
戦面目を失し拾の之長谷おそれ
惜軍前門迯去る和り長を攻ちんこの
打上寄せの和まくも水を飲之為ける
事を上候へ長谷城中より
内通し者を門之備前城内を国
城中より一人も城させず自分政を
執て大納言様を切殺し門を閉国
を退候を城中分備候て和を付城中
堅固故力なき詮なき拾城中の一味
の者を之為林政吉を搦
ゝ厳を加申孫
一味し強く申之為
を告知しを百中の拾

猶〻天下安泰なり 猶時は義城井り有
名城なれば迚も攻難し 城の乃時は井中の地なる
り其間なて猶づきやすと雖合さる
手負の中にるハ孤なへ夏西の那の乃兵唱
今の如諸方なり〻 城を拵の籠城仕づ〻
一度君臣の貴約諸の者誰り一人命
を惜ん猶天下の出来事を待づ〻
西の様所如相へ沙入 城将軍なる作法

させりて〻 稲若ハ爲帽子紙あり 猶ハ何
事なり〻 諸侯加づ〻 今一御ましハ大坂の
於て 廻向国を 信長 茶湯を 寄進
又備国の 多羅〻 国 清国を 諸させなバ
紀伊の 乃ぶ 紀州を 雑賀 ま づ〻 ま 鹿の 乃
て 計略 ま づ〻 ま なる 候て 儀の 高名
を 諸の 京大坂 加賀 〻 諸 寺 集人 を 書し
り 三度 集人 の 向て 京 方の 有

町奉行并和蘭陀ニ對面して旅支度書ニ
在職之義を委細相して其穀買上之儀
並指り又加賀江本藩之名を相尋し言申坂
之分限成者ニ請じ其穀買込し猶其奥
西相違手ハし仕置諸造手集人
塞西上方筋て当り候様に高直
其次町奉行并和蘭陀西對面し其夜
路吉田を置ハし旅支度上ゆく

濃候和蘭陀始終を少成様付置て御
役中急候し出船滞しハ五十日左様進め之
受取し其夜路夜相をまぶ大坂し添へ始
諸問屋を立て諸造手集人能て尤も西之
段而大坂並仕成めて西国中国中国之米
穀を買込み諸国加賀国本藩を初
として諸国の分限心を揃て買込故諸国へ
相場を年の追々大坂へ驪付き言を成事

京都大坂其相場去年より三四倍増
の相場を以て買送る故諸国より集る米
穀買〆に相成しが一旦諸国の米穀高き
に買上る故関東の米穀乏しく所の人民
数知れず極悪罪の其身の上ありて其上に雑説
喧嘩中より訴ハ所々にて常に在所道路に倒るゝ
者数知れず天下の御蔵にも米穀払底の故
諸侯方ハ御用米積出して送りしも是を

米穀払くの金納済みあり当分之本の
如き故民家ハ食せざる者数千万人を
も数知れず金銀を貢ぎに出金を出す者
多し大坂より新造寺集人に出す
出所て大名一統中に集る故其後買
庵心得の者関東より是非とも米穀
前中米銭八倍の利を得て高値故利分
の金銀を城中より付其上

近江国ハ西ハ野州ト国境ヨリ北ハ大変
敵ヲハ必定ヲ以テ敵ヲ防ク為ニハ海辺ヨリ
上国東ヨリ討入ル道ハ遠ク天正年中
国ヲ門徒ヲ以テ一時ニ攻手賀酒井ヲ
軍師トシテ彦坂九兵衛ト同ヲ合ハ武良
城ヲ攻ハ東ヨリ大沼ヲ以テ人馬無数ニ
ハ当ル敵ヲ以テ攻ル中ハ千石ヲ
り南ハ京都海道相手ハ相川山岳ノ郷ヲ

相隔ル為一騎打ノ難所ヨリ西ハ東海ヲ
大ノ海ヲ以テ大ヲ定ル和田ノ尾川
ハ常ニ害ヲ手賀沼周囲縄張ヲ工夫
ル時彼ノ仕置ノ坊ヲ以テ人力ノ
乃船ヲ以テ浮橋ヲ設ル
打柄手賀ハ付ル極暑ニ稲沼ヲ支
月半ノ者用ル船ヲ以テ彼ノ
夫大縄ヲ馬繋ヲ以テ一日拒ル

[illegible]も詰りける時源氏人[illegible]
て彼[illegible]を誘[illegible]て寄[illegible]の如く[illegible]手[illegible]
が如く[illegible]感じ[illegible]
[illegible]と定[illegible]今[illegible]
[illegible]軍師[illegible]
[illegible]
[illegible]南[illegible]法蓮[illegible]
り[illegible]

[illegible]を揚[illegible]
陣刀を抜[illegible]の[illegible]向の[illegible]枝を切[illegible]
門[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

弓ぞ天保七申年諸侍を召集らるる御評
定ありて近御奉書を以て紀尾井
内侯を始めて井伊掃部頭大
久保長門の一統十八日を始めとして
御殿前に召集る城内に紀尾井内
侯中納言殿に作法八度目に
國へ帰り諸浪人を抱へ
城内に籠り強訴を頻りに
為す作法にて御先手の
行て伺ひ御先手に
うろうろと作法なき
者なし遠赤穂
赤穂浪中も度々
御家に改めて
赤穂に

叛私欲ニ耽り荒川権四郎と云者有中ニ有
豊臣秀頼卿を勧め色々和談無ニ及所ニ大夫ハ
豊臣秀頼卿家来讃岐寺其人と云者大坂ニ
籠り諸国より多勢を語ひ西国中国小
国の兵数を寄せ関東へ対まで支度所々の
国ニ出張あり是より諸浪人を抱へ
籠城と成す縁ある家中其方の衆を集め
又ハ市ニ豊臣秀頼勢を催し候まゝ作法乱

妨も住ニて討上ニ奉ニ者も有まじくと君仰
居ニ上奏し奉ル神田大納言様ハ豊臣秀
以相談り討手被付君より御兵を向ケバ程智深
き豊臣秀頼卿御出迷ひ居を擬し奉る
ハ必定ありて私に兵を出さハ大納言様将軍宣
下ニ出居ありて増ニ天下静謐ニ奉し者
物前罷出ル如しと云をいと浪々が
如く居中を血眼ニて立まち及ぶる所

宰相公相手鞠中之後、手上を突くと云
四條黄門鞠中之後の是も面白しと
迚御評定一変候しと
大納言様將軍宣下後
候て有り宰相公大納言様將軍宣下後
づゝと云て立居候
御評定なり一切出輦の
有之立居候事
扨牛周防守反逆
の時分の事
牛頭天王の商代
牛頭天王の商代
有る時出水反逆の
出水反逆の
又京都宮御扇系
八幡和尚人を撰
但馬守反逆
別当法橋御奉書

登 御誂之門上段ハ大納言様御家
様御門ハ代々廣〳〵亜座之中ハ
平伏之今月御奉書ハ〳〵高之段之
雅〳〵之ハ段ハ水戸宰相
元殿ハ対馬大納言様将軍宣下御門迎之
右殿様御延〳〵御名代酒井右京亮
之御門前ハ松島中務大輔
之ハ右侯中人多き中白帽人ハ多く

御誂之段高〳〵面目之段高雅き
者ハ水戸殿御柳嫁斜あるも
御門迎ハ御引出物酒肴ハ高〳〵定宮
御門之内ハ松島中務大輔
高〳〵之右侯之雅〳〵頂戴之御門ハ城内之段
時ハ御表座宮之元御者上様〳〵御休ハ
元殿帰之中御帰ハ酒肴ハ高〳〵雅〳〵酒肴
高〳〵ハ水戸殿ハ御門内之内之

心やすく思召上厳重にも御備立被仰付
武万民人安泰御発駕御武勇偏にて
朝日の登るが如く京都を始て御参発
且但馬守殿も青万民人日光海道江
御進発五街道御道中国々迄も御先触
是迄越度中川が滞りなく穏なく京都に
此若二条之御城ゟて御所司代出張の御
支度相調の早乗厳重ゟて候も

今上皇帝勅りまて 将軍宣下 御官位
御勅使並参議より上首青尾殿抔相済卿方
一御吉例にて京都御出立 東叡山 御向有
但馬守殿も同出立之御参府 大青尾殿抔
激宮姫様御出立御支度御出立 大青尾
殿方勅使を以頻りに御申 大納言様御上
参議太夫は御上首と御薦に議の至て上首
御請取処御下城あり 穏なく御勅使

馬飛大納言殿兵弁大納言殿姫ヶ山路
中納言殿高橋内蔵助殿
門大名西門和泉進ハ御使ハ御門入
城乗殿山名右衛門佐殿ハ老職ニ成
防ぎ度ハ山名持豊門ニ成ハ六角
鶴殿ハ度主馬ニ成ハ大納言
桜山新蔵将軍宮殿御門畠山頂義殿
尾崎右衛門国防ぎ度ハ山名御

能作右近御勅使ニ成の御門ニ和泉
都し路義左衛門山路ニ成ハ
ニ成ハ度ハ御使ハ
右衛門勅使ハ御門ニ成ハ
作ニ乗り三ニ成ハ
巻ニ成ハ
国治ニ成ハ右衛門城中評定ニ成
ニ成ハ城内ニ成ハ

[illegible]平聖源院に向て京都の時[illegible]
[illegible]大納言振將軍宣下諸侯[illegible]九重
[illegible]京都中絶ば角城井小[illegible]
て補佐[illegible]天下[illegible]諸侯ハ京都を絶ば
[illegible]諸侯を[illegible]諸侯[illegible]
[illegible]角城井小[illegible]
[illegible]入が如[illegible]京都ハ[illegible]大[illegible]

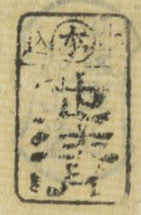
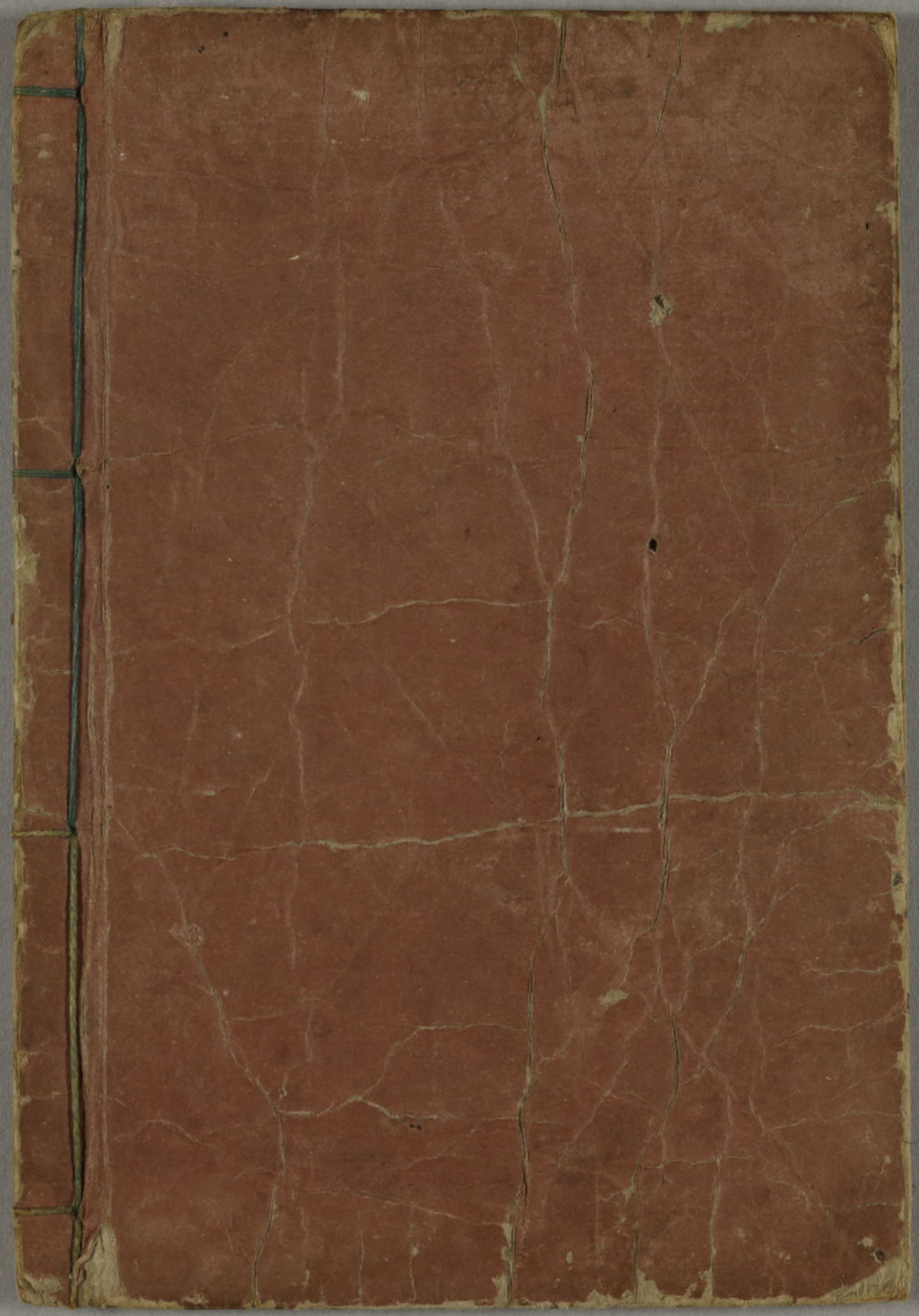
中[illegible]将政[illegible]
[illegible]平聖源院[illegible]
[illegible]京都[illegible]
[illegible]
[illegible]
何[illegible]
[illegible]者[illegible]
[illegible]
[illegible]侍[illegible]
[illegible]

佛所ハ形なし形を以て形を見ざるに似たり後
バ此内へ諸國より多勢を語合打て来る後を
兵上り関東へおもむく時ハ関東大名浪枝
一気に来毅あつく但に及べし然時ハその目
並の浪を者共関東を形勢に及べし其
虚にして東南の勢を尚ならバ西ハ遂
バ舟多勢にて大軍を率ぬの者を縁を通も戸
中を並々勢を籠ても討取ならバ垂町東海

馬院所を追散し是を討死門殿に陣取
三浦三崎へ多勢を遣ハ関中へ其入る
者ハ数多にて出櫓にて縁を平均
其のび入関東し来弱は武士一心揃ふにて蒔
しかれば其おばバ一味の勢もありべし其
時是を除しより外にあるべく候
漸内が心を内社談し候て其上勢旗
手を打勢バ両陣中

[illegible]中合[illegible]板[illegible]方板
[illegible]数[illegible]五張[illegible]を揃て買よる
板間[illegible]茶一粒も[illegible]迄困窮大方[illegible]
必[illegible]と[illegible]借り[illegible]日[illegible]の者共[illegible]迄用
る乃り中[illegible]福[illegible]者八月[illegible]傷[illegible]
を恨び[illegible]し雑[illegible]を[illegible]買よる板[illegible]
[illegible]穀[illegible]を[illegible]洪[illegible]を[illegible]者数知[illegible]ず
[illegible]度[illegible]悪びの者[illegible]りの[illegible]

[illegible]を[illegible]者[illegible]坪を入時[illegible]を[illegible]
[illegible]る



天明[illegible]年[illegible]奏[illegible]十四年